

2026年1月30日

報道機関 各位

学校法人千葉工業大学
株式会社DOU

千葉工大、「バイブコーディング」で人材育成を本格始動

Microsoftの戦略思考型AIエージェントを国内大学初採用で「思考の拡張」を加速

～学生と社会人が混合チームで「AIエージェント」と共に社会課題を解く～

千葉工業大学 × DOU



千葉工業大学（千葉県習志野市、学長：伊藤穰一）は、Microsoftが開発中の戦略思考型AIシステム「Amplifier」を国内大学として初めて教育カリキュラムに導入し（※1）、2026年4月より総合科学特論「web3/AI概論」第4期を開講します。第4期目となる「web3/AI概論」はAIが自律的にタスクを遂行する「AIエージェント」との協働を中核テーマに据え、学生と社会人の混合チームで社会課題解決に取り組む次世代人材を育成します。本講座の科目責任者は学長でもあり変革センターの所長でもある伊藤穰一が務めている講座となり、2026年4月16日に開講、1月30日から募集を開始します。2025年度にはAIと対話しながらソフトウェアを開発する手法「バイブコーディング」でプロダクト開発経験者を2.6倍に増加させており、この実績を土台にさらなる進化を図ります。

2026年はAIエージェントが本格実装される年、と言われています。ChatGPTやClaudeなどの生成AIが広く普及した今、次の段階として、AIが自律的にタスクを遂行し、複雑な問題解決を支援する「AIエージェント」の実装が本格化しています。AIエージェントの普及が進めば、インフラの整備はもちろん、音楽・画像・動画などクリエイティブのあり方、ウェブとの接し方、専門職をはじめとした仕事のあり方、そして教育のあり方が根底から変わると予測されています。

こうした時代の変化を見据え、4年間の実績を持つ本講座は、新たなフェーズへと進化します。受講生は、AIエージェントのメカニズムを深く理解した上で、自分専用のAIエージェントを開発することも視野に入れながら、4月から7月まで毎週2時間、全13回の講義に取り組みます。

※1 自社調べにより

■ 「web3/AI概論」 第4期で学べる3つのこと

国内大学初 Amplifier導入	実績あるバイブコーディングを、AIエージェントでさらなる次元へ 昨年度に劇的な教育効果を証明した「バイブコーディング」を、最新のAIエージェント技術（Amplifier等）と融合させます。単なるプロトタイプ制作にとどまらず、AIエージェントを自律的なパートナーとして使いこなし、複雑な課題を高速に解決する次世代の開発スタイルを身につけます。
学生×社会人 混合チーム	社会課題に着目し、創造的なソリューションを主体的に生み出す 社会・組織の課題を自ら発見し、AIエージェントを用いて構造化・分析を行い、多様なテクノロジーを適切に選択・活用しながら、実践的に課題解決へと導くアプローチを身につけます。学生と社会人が混合チームを組み、多様な視点でプロジェクトを推進します。
web3で 学習体験を拡張	web3技術を活用したコミュニティ形成とゲーミフィケーション ブロックチェーン、NFT、スマートコントラクトなどのweb3技術を活用したコミュニティ活動やゲーミフィケーションを通じて、先端技術の活用シーンを体感し、理解を深めることができます。学ぶこと自体が先端技術の実践になる設計です。

バイブコーディング（Vibe Coding）とは： 専門的な記述をAIに委ね、人間は「本質的な問い」に集中する開発手法です。千葉工大では2025年度にこれをいち早く導入し、初心者がわずか3ヶ月でプロダクトを完成させる教育モデルを確立しました。2026年度は、ここに「AIエージェント」が加わることで、企画・分析・検証の各プロセスが自律的に加速され、人間はより高度な「創造的意思決定」に専念することが可能になります。

■ 第4期（2026年度）の新たな挑戦：AIエージェント教育の本格始動

第4期となる2026年度の最大の特徴は、「AIエージェント」を講座の中核テーマに初めて据えたこと。生成AIが「質問に答える」存在だとすれば、AIエージェントは「自律的にタスクを遂行する」存在です。情報収集、分析、企画立案、コード生成、検証といった一連のプロセスを、人間と協働しながら進めることができます。

これまでの3年間で培ってきたプロジェクトベース学習のノウハウを活かしながら、本講座では、AIエージェントを「使われる側」ではなく「使いこなす側」の人材を育成します。AIエージェントを単なるツールとしてではなく、企画・設計・分析の各段階における「協働するパートナー」として位置づけ、共に思考し、創造する開発スタイルを身につけることを目指します。

【第4期で導入する技術・ツール】

- **Microsoft「Amplifier」（国内大学初導入）：** Amplifierは、Microsoftが開発中の実験的メタ認知AI開発システムとなります。知識生成や並列探索を支援し、AIエージェントがより高度な思考プロセスを実行できるようにするための基盤技術です。本講座では、このAmplifierを国内の大学として初めて教育カリキュラムに導入し、受講生がAIエージェントのメカニズムを理解し、自ら設計・活用できるスキルを習得します。
- **バイブコーディングツール群：** 対話型でプロトタイプを高速に生成・改善できる「バイブコーディング」の実践を通じて、AIエージェントと共にプロセスを進めながら協働する開発スタイルを身につけます。Claude、Cursor、Replit、v0など、最新のツールを活用し、アイデアを素早く形にする技術を習得します。
- **生成AIツール：** Claude Code、ChatGPT、Geminiなどの生成AIを組み合わせ、企画から検証までを効率的に推進します。これまでの講座で培ったノウハウを活かし、生成AIとAIエージェントを適切に使い分けるスキルを養います。

■ 実証された教育効果：2025年度の成果が示す「加速」への礎

本講座が2026年度にAIエージェントへの進化を遂げる最大の根拠は、2025年度に導入した「バイブコーディング」による劇的な成果にあります。

1. 「未経験者」を「継続的な開発者」に変えた実績

バイブコーディングの導入により、開講時に17.6%だったプロダクト作成経験者は、わずか3ヶ月で45.6%へと約2.6倍に急増しました。「言葉がそのまま形になる」体験が技術の壁を取り払い、未経験者の6割以上を「作り手」へと変貌させました。

また、一過性の課題制作にとどまらず「継続的に複数回プロダクトを作成した」受講生が3倍以上（5.9%から18.4%）に増加。これは、バイブコーディングが単なるツールを超え、日常的な「開発習慣」を形成したことを示唆しています。

表：プロダクト作成経験の質的变化（n=136）

経験レベル	開講時（4月）	終了時（7月）	変化
開発経験者（チーム・継続）合計	24名（17.6%）	62名（45.6%）	2.6倍に急増
└ 継続的な開発習慣（レベル4）	8名（5.9%）	25名（18.4%）	3.1倍に急増
└ チーム開発の経験（レベル3）	16名（11.8%）	37名（27.2%）	2.31倍
└ 個人での開発経験（レベル2）	27名（19.9%）	35名（25.7%）	1.3倍
プロダクト作成未経験	85名（62.5%）	39名（28.7%）	54%減少

2. 技術的・社会的スキルの飛躍的向上

バイブコーディングの導入は、従来のプログラミング教育が抱えていた「技術習得の壁」をAIエージェントとの対話によって取り払い、受講生を「学ぶ側」から「作る側」へと一気に加速させました。

今年度の調査では技術力への自信が46.3%（2.09から3.06）、Web3/AIへの理解が44.5%（2.43から3.51）向上しており、受講生の大半が「自信がない」状態から、自律的に技術を操れる中級者レベルへと飛躍的な成長を遂げています。

測定項目	開講時（4月）	終了時（7月）	向上率
技術力自信	2.09	3.06	+46.3%
web3/AI理解	2.43	3.51	+44.5%
チーム開発自信	2.16	3.08	+42.4%
キャリア目標の明確さ	3.01	3.63	+20.5%
web3/AI活用意識	3.96	4.51	+13.9%

※各数値は5段階評価（1＝最低：全くそう思わない、5＝最高：とてもそう思う）に基づく平均値となります。

3. 圧倒的なアウトプット量と社会実装

バイブコーディングによって思考のスピードを落とさずに実装できるようになった結果、2025年度の1講座だけで75種類ものプロダクトが誕生しています。この圧倒的なアウトプット量は、単なる学習の域を超え、実社会での成果に直結しています。

- 資金調達の実現： 本講座で開発したサービスで実際に資金を調達する受講生を輩出。
- ハッカソンでの活躍： 東京都主催のハッカソンでファイナリストに選出。

● **実運用の開始**：学内向けアプリケーションをローンチし、実際に利用される事例も誕生。

このように、バイブコーディングは「技術の習得」にかかる時間を「価値の創造」へと転換させ、初心者がわずか数ヶ月で社会を変える一歩を踏み出せる、新しい教育モデルを確立しました。

2026年度は、この「バイブコーディング」が生み出した爆発的な創造力を、AIエージェントという新たな翼でさらに加速させます。2026年度はAIエージェントと共に、より複雑で大規模な社会課題の解決に挑みます。

■ 学習方法の特徴：反転授業とプロジェクトベース学習

本講座は、従来型の一方的な講義形式ではなく、「反転授業」と「プロジェクトベース学習（PBL）」を組み合わせた先進的な教育手法を採用しています。

◆ 反転授業（Flipped Classroom）

基礎となる講義内容はUdacityやASU（アリゾナ州立大学）の教材を活用し、自宅で事前学習を行います。授業時間は、インタビュー結果の共有、アイデア検討、プロトタイプ改善、プレゼンテーションなど、実践的なアウトプットを中心に進めます。これにより、限られた対面時間を最大限に活用し、深い学びを実現します。

◆ チーム活動を前提としたプロジェクトベース学習

受講生は、社会人と在学生が混在するチームを組成し、実際の社会課題に向き合います。課題の発見から分析、設計、開発、検証までを協働して進め、最終的には発表可能な水準のプロトタイプを完成させます。多様なバックグラウンドを持つメンバーとの協働は、実社会で求められるチームワークスキルの獲得にも直結します。

◆ web3技術を活用したゲーミフィケーション

ブロックチェーン、NFT、スマートコントラクトなどのweb3技術を活用したコミュニティ活動とゲーミフィケーションを導入しています。受講生は先端技術の活用シーンを体感しながら学習を進めることができ、技術への理解を単なる知識ではなく「体験」として深めることができます。

■ 科目責任者 伊藤穰一より

AIエージェントの台頭により、開発の本質は「コードを書くこと」から「何を創るかを設計し、AIを操ること」へと激変しています。本講座では、AIを単なる道具ではなく共創相手として活用し、圧倒的な速度でアイデアを具現化する「新人類」のようなエンジニアを育成します。重要なのは、既存の答えを出す力ではなく、自らの価値観に基づき「問い」を立てる力です。変革を楽しみ、世界をハックする志を持つ学生の挑戦を期待しています。

■ カリキュラム概要（全13回）

本講座は、「理解」→「実践」→「発表」の3フェーズで構成されています。

前半
第1～4回

【基礎理解】AIエージェント時代の開発プロセス

AIエージェント活用の全体像、課題発見と問いの深掘り、価値仮説づくり、GitHub協働基礎

中盤 第5～10回	【実践開発】ユースケース分析とイテレーション 創造性と学び方、ユースケース事例研究（4回）、中間発表、インタビュー準備・実践
後半 第11～13回	【発表準備】仕上げと最終プレゼンテーション ピッチデッキ作成、プロトタイプ・スライド仕上げ、最終発表会

■ 講座概要

講座名	総合科学特論「web3/AI概論」
科目責任者	伊藤穰一
講師	西村奈々、下瀬浩一、石部達也、品田美帆、他
開講時期	2026年4月16日～7月16日（全13回）
曜日・時間	毎週木曜日 15時～17時（2時間）
形式	オンライン（反転授業形式）※一部対面セッションあり
単位	取得可能（2単位）
定員	300名
主な学習内容	AIエージェント活用、バンプコーディング、プロジェクト開発、web3技術
使用ツール	Amplifier、Cursor、Replit、v0、Discord、GitHub 等

■ 受講対象

AIやweb3に興味のある以下の方々：

- ・千葉工業大学の学部生・大学院生
- ・他大学の学生
- ・社会人（ただし、以下の出願資格に該当する方に限ります）

■ 出願資格

令和8年3月31日までに18歳に達する者で、次のいずれかに該当する者。

1. 高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者または令和8年3月卒業見込みの者。
2. 本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

■ 必要な環境

- ・各種ツール（discord、metamask、manaba、google drive、ChatGPT、webexなど）にアクセスができること。
- ・PC・Macなどをお持ちの方（ipadやタブレットのみの方は不可）

■ 受講申込みの流れ

web3/AI概論の受講には、千葉工業大学公式サイトからの申込みが必要です。まず最初にID登録を行った後、講座への出願に進んでいただき、大学での選考を経て、授業料の振り込みへと進みます。以下の手順で、申込みから授業開始までの流れをご案内します。

STEP	期間	内容
01	1月30日募集開始	募集要項を確認 応募資格や募集期間をご確認ください。
02	1月30日～3月25日締切	ID登録（出願予約） 受講を希望される方は期日までに、学内システムにてID登録をお願いします。こちらの登録は、こちらの登録は、 出願に必要な事前手続き となります。登録期日を過ぎますと、web3/AI概論の出願ができなくなります。必ず期日までに下記リンクよりお申し込みをお願いします。 URL: https://conveni.is.it-chiba.ac.jp/cert/i/i_registration.html ※ID登録の時点では料金は発生いたしません。 ※「お名前」「ご所属」「電話番号」を入力の後、「所管部署」は必ずプルダウンで「教務」を選択してください。 ※登録期日は3月25日23時59分までとなりますので、ご注意ください。 ※ID登録が完了しましたら、手続き完了メールを送信いたします。こちらの完了メールが届かない場合は迷惑メールフォルダもご確認ください。 ※ID登録の完了後は、3月26日以降にご案内する出願手続きまでお待ちください。
03	3月26日以降	メールで出願手続きの詳細をご案内します ID登録期間の終了後、大学から出願手続きの詳細をメールにてお送りします。届かない場合は迷惑メールフォルダもご確認ください。
04	3月25日～4月3日	出願情報を送付 出願は学内システムの指定フォームにて受け付けます。受講を希望される方は、出願期間内に必要な情報を入力してください。 ※本学での授業を受けるにあたっての誓約事項も必ずご確認ください、必要情報のご提出時にご同意をお願いします。
05	4月3日～4月14日	選考・選考結果発表ご送付 本学にて順次、書類審査を行います。履修の可否を決定し、受講対象となった方へ順次通知メールにて結果を送付いたします。 場合によっては面談を行うこともあります。その場合は改めて本学よりご連絡します。
06	4月6日～4月14日	受講手続き 受講を確定する方は、4月14日までに授業料の振り込みを行ってください。
07	4月16日	授業開始 いよいよ授業スタートです！

■ 背景：なぜ今「AIエージェント教育」なのか

デジタル化の急速な進展に伴い、AIエージェントや生成AIをはじめとした新しい技術が日々生まれ、インターネット上の情報環境と開発手法は大きく変化しています。企業や行政機関における課題発見から価値検証、開発、運用に至るプロセスは、今まさに根底から変容しつつあります。

こうした社会的変化の中で求められるのは、主体的に課題を見つけ出し、AIエージェントを含む多様なテクノロジーを適切に選択・活用しながら、実践的に課題解決へと導くことのできる人材です。

本講座は、2021年度の開講以来、時代の変化に合わせてカリキュラムを進化させてきました。web3技術から始まり、生成AI、バイブコーディングを取り入れ、そして2026年度はAIエージェントへ。4年間の実績とノウハウを活かしながら、常に最先端の技術教育を提供し続けています。

■ 「web3/AI概論」4年間の歩み

千葉工業大学では2021年度より、次世代のインターネット技術を学ぶ講座を開講してきました。時代の変化に合わせてカリキュラムを進化させながら、3年間で累計800名以上の受講生を輩出しています。

【第1期・第2期（2021～2023年度）】web3概論として開講

ブロックチェーン、暗号資産、NFTなど、web3技術の基礎知識と開発手法を学ぶ講座としてスタート。千葉工大の学部生・大学院生に加え、他大学の学生や社会人も受講し、多様なバックグラウンドを持つ受講生が学び合う場として発展しました。

【第3期（2025年度）】生成AI・バイブコーディングの本格導入

講座名を「web3/AI概論」に改称し、生成AIや大規模言語モデル、ノーコード・ローコードツールを本格導入。「作ることで学ぶ」プロジェクト実践型授業へと進化し、社会人・在学生が混在するチームで社会課題に取り組む形式を確立しました。この年、75種類のプロダクトが誕生し、縦断的研究による教育効果の実証も行いました。

【第4期（2026年度）】AIエージェントを中核テーマに

AIエージェント技術の急速な発展を受け、講座の中核テーマとして「AIエージェント」を初めて据えます。これまでに培ったプロジェクトベース学習のノウハウを活かしながら、AIエージェントを協働パートナーとして使いこなす人材の育成に取り組みます。

■ 本件についてのお問い合わせ

株式会社DOU

担当：石部

E-mail：info@dou.id

website：<https://gairon.henkaku.org/chibatech>

〈取材・大学広報・授業関連についてのお問い合わせ〉

千葉工業大学 入試広報部

E-mail：cit@it-chiba.ac.jp